

霞

— 2023年度 博物館だより —

土浦市立博物館

令和5年5月2日発行(番外第11号)

土浦市立博物館は、大規模改修工事のため、令和4年7月5日(火)から令和6年1月5日(金)まで休館いたします。博物館だより「霞(かすみ) 番外」では、毎月、工事の進捗状況や館外で開催する展覧会や講座の情報をお伝えします。休館中の「おうちミュージアム」(解説動画)では、土浦市内の史跡や文化財などの見どころを紹介します。

博物館は休館中！(11)「資料調査も行ってます」

博物館では休館中も、館外での資料調査を行っています。11月～1月には、^{かんだつまち}神立町に残っていた「井戸縄」(井戸の底へ降りる「命綱」や井戸水の汲み上げに使用)を作る道具の調査や、市内旧家の蔵の中に保存されていた資料の分類をしました。



井戸縄作りの道具の調査(令和4年11月28日)



蔵から出てきた資料を分類する様子(令和5年1月27日)

◆博物館からのお知らせ◆

●『ハンドブック 土浦“モノ”語り』をご紹介します。

博物館・上高津貝塚ふるさと歴史の広場では、旧石器時代から近代にいたる土浦の歴史について、歴史資料(モノ)を通して紹介するハンドブックを作成しました。

規 格 A5判 160ページ フルカラー

収録資料の数 176件

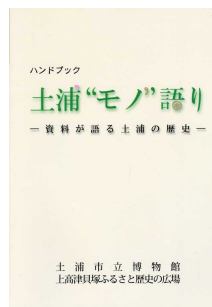
価 格 500円

購 入 方 法 土浦城東櫓および上高津貝塚ふるさと歴史の広場で販売しています。郵送での購入をご希望の方は、住所・氏名・ご希望の図書名を記入したものと、代金680円(送料180円を含む)を現金書留または郵便局の定額小為替で、下記住所までお申し込みください。

なお、おつりは切手となります。ご了承ください。

〒300-0043 茨城県土浦市中央2丁目16-4 亀城プラザ2階 土浦市立博物館仮事務所

※亀城プラザ移転期間(2023年11月末まで)の宛先です。



土浦を見守る色川三郎兵衛の銅像

—建設と再建までの経緯—

常福寺（土浦市下高津二丁目）境内の紅葉ヶ丘と呼ばれる一角の白い台座に、地蔵菩薩像が立っています（写真1）。かつてここには色川三郎兵衛の銅像が立っていました（写真2）。

色川三郎兵衛（1842～1905）は屋形村（千葉県山武郡横芝光町屋形）に生まれ、名を孝八郎といいましたが、土浦で醤油醸造業を営む色川家の娘婿となり、名を英俊と改め、「三郎兵衛」を襲名しました。茨城県会議員や国会議員などを務め、土浦の洪水対策にも尽力したとされ、明治42（1909）年には頌徳碑が神龍寺（文京町）に建てられました。

銅像は昭和12（1937）年に完成しました。真鍋町出身の彫刻家一色五郎の作で、国会議員時代の姿を象ったといわれます。なぜこの時期であったのか、理由として、同10年の原脩次郎（1871～1934）の銅像建設が挙げられます。原は茨城県初の国務大臣で、没後に銅像が亀城公園に建てられました。原を支えた旧改進黨系の地盤の基礎を確立した英俊が顕彰の対象とされたようです。さらに同年に起きた大洪水により、かつてその対策に尽力した人物としても英俊が目撃されたと考えられます。

銅像は、昭和12年に土浦町と合併した旧中家村の写真1、2の場所に完成しましたが、わずか6年後の昭和18年、戦時中の金属回収により原の銅像とともに供出され姿を消しました。

戦後の昭和32年に、原の銅像は胸像として復元されましたが、英俊の銅像は、やや遅れて昭和55年に現在地（川口二丁目）に再建されました。なぜこの時期だったのでしょうか。再建を提唱した榊原勝は、主宰する『土浦文学』第17号で「この動議は前から云われていた。私が今更の思いつきで云うのではない」と述べています。また土浦市史編集委員長永山正は再建趣意書に「現下の土浦の繁栄を思うとき、この銅像の復元なくしては土浦の戦後は終わっていないと思う」（『土浦文学』第24号）と記しています。市議会議長寺内龍太郎が建設委員長となり、2,000万円余りの寄付金と市補助金200万円をかけ、市制施行40周年記念事業の一環として銅像は再建されました。英俊の銅像は、戦後の復興のシンボルとしての役目も担ったといえます。



写真1 地蔵菩薩像（左）と市街地（右）



写真2 写真絵葉書
「土浦名所 紅葉ヶ丘公園色川三郎兵衛翁銅像」



写真3 霞ヶ浦を望んで立つ
「色川三郎兵衛之像」（再建）



左のQRコードから解説動画のウェブページへアクセスできます。

霞（かすみ） 2023年度 博物館だより（番外第11号）
編集・発行 土浦市立博物館 茨城県土浦市中央1-15-18
TEL 029-824-2928 FAX 029-824-9423
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir000378.html>

博物館だより「霞」番外第12号の刊行は、令和5年6月1日（木）を予定しています。

※「霞」バックナンバーは、当館ホームページからもご覧になれます。（カラー版）